

新技術名：オウトウ幼果菌核病の防除（平成4～5年）  
（トップジンM水和剤の開花中散布効果）

③・参

研究機関名 果樹試験場環境部病害担当  
担当者 佐藤 裕

## I 新技術の解説

### (1) 要 旨

#### ○ね ら い

オウトウ開花中のトップジンM水和剤散布による幼果菌核病の防除効果を検討し実用化を図る。

#### ○経過と方法

平成4～5年の期間に、オウトウの満開5日後に防除剤を散布し幼果菌核病による幼果腐れを調査した。

#### ○技術の要旨

トップジンM水和剤の1000倍および2000倍散布はともにオウトウの満開5日後に散布することによって、幼果腐れに対する防除効果が認められた。

### (2) もたらされる効果

トップジンM水和剤の散布によって幼果菌核病の防除が期待できる。

### (3) 普及対象範囲

県内のオウトウ栽培地域

### (4) 普及上の留意事項

ベンズイミダゾール系薬剤は、オウトウの灰星病菌において耐性菌出現の事例が県外で報告されており、本県においてもその可能性があることから、灰星病と幼果菌核病の同時防除を行う場合には満開5日後の防除として、ベンズイミダゾール系薬剤以外の灰星病防除剤にトップジンM水和剤を加用して散布する。

### (5) 発表文献等

東北農業研究第47号

## II 具体的なデータ等

表－1 幼果菌核病防除試験（接種試験）（平成4年）

| 供試薬剤      | 希釈倍数  | 調査果数 | 発病果率   |
|-----------|-------|------|--------|
| トップジンM水和剤 | 2000倍 | 604  | 1.8(%) |
| トップジンM水和剤 | 1000倍 | 707  | 3.0    |
| 無散布       |       | 924  | 9.1    |
| 無処理       |       | 1011 | 0.9    |

\*品 種：ナポレオン（9年生、アオバ台）

散布方法：平成4年5月17日（満開5日後）にハンドスプレーを用いて散布した。

接種方法：散布・風乾後、孢子懸濁液（自然発病した葉ぐされ病斑上の孢子を使用、濃度は $6.0 \times 10^4$ 孢子/ml）を各区に噴霧接種した。

調査月日：平成4年5月27日

表－2 幼果菌核病防除試験（平成5年）

| 供試薬剤      | 希釈倍数  | 調査果数 | 発病果率 |
|-----------|-------|------|------|
| トップジンM水和剤 | 1000倍 | 94   | 0(%) |
| ベンレート水和剤  | 3000倍 | 180  | 0.6  |
| 無散布       |       | 170  | 9.3  |

\*品 種：佐藤錦（10年生、アオバ台）

散布月日：平成5年5月10日（満開5日後）にハンドスプレーを用いて散布した。

調査月日：平成5年5月27日

|      |      |       |     |
|------|------|-------|-----|
| 発行年月 | 9506 | キーワード | 159 |
| 基礎分類 | 35   | キーワード |     |
| 作目名  | 41   | キーワード |     |